

No.25

平成29年2月1日

自治医科大学附属病院だより

Jichi Medical University Hospital



入院受付

自治医科大学附属病院の理念・基本方針

理念

1. 患者中心の医療
2. 安全で質の高い医療
3. 地域と連携する医療
4. 地域医療に貢献する医療人の育成

基本方針

1. ①安全な医療 ②人間味豊かな医療 ③質の高いチーム医療 ④高度で先進的な医療 を提供します。
2. 情報公開を積極的に推進します。
3. 地域の医療機関との連携を深めます。
4. 地域医療に気概と情熱を持ち、全人的な医療を実践する医療人を育成します。

患者の皆様の権利と義務について

【患者の皆様への権利】

自治医科大学附属病院に働くもの(私たち)は、患者の皆様が医療の中心であり、患者の皆様と医療関係者との信頼関係の上に医療は成り立つものだと認識しております。患者の皆様は次のような権利があります。私たちはその権利を尊重します。

- ・ 個人として尊重された上で適切な医療を受ける権利
- ・ 安全に配慮した高度で良質な医療を平等に受ける権利
- ・ 病状や治療内容について十分説明を受ける権利
- ・ 十分な説明を受けた上で、治療方法等を自らの意思で選択決定する権利
- ・ 治療方法等について、他の医療機関(医師)に意見を求める権利(セカンドオピニオン)
- ・ 申し出により診療録の開示を受ける権利
- ・ 診療に関する個人情報保護・尊重される権利

【患者の皆様へのお願い】

当院は、高度医療の提供、高度医療技術の開発・評価、高度医療に関する研修を行なう特定機能病院としての承認を受けております。適切な医療を実現するために、次の点にご理解・ご協力をお願いいたします。

- ・ ご自身の健康状況について出来るだけ正確にお話してください。
- ・ 医学生・看護学生等の見学・実習・研修が行なわれております。
- ・ 本院での急性期の治療・検査をいったん終了し、病状が安定した後は、地域の連携医療機関へご紹介いたします。
- ・ 臨床研究についてご協力をお願いする場合がございます。臨床研究に参加しなくても、またいったん参加したあとで参加を取りやめても、不利益を受ける事はありません。
- ・ 脳死臓器提供や緊急の臓器移植手術のために、予定されていた手術が急遽遅延したり、中止になる可能性があります。
- ・ 脳死と判断した場合には臓器提供の機会があること、手続に際して担当医師以外のコーディネーターによる説明があることをお話する場合がございます。この場合でも、その説明を聞かなくても不利益は受けません。
- ・ 法令と病院の規則を守り、病院スタッフの指示に従って行動してください。
- ・ 患者の皆様と、病院スタッフを守り、開かれた安心できる医療を提供するために、暴言・暴力・迷惑行為が行われた場合には、診療を控えさせていただくことや、警察に通報することがあります。
- ・ 本院の敷地は、建物内、外周とも禁煙です。

▶ Information from the Hospital「患者サービス検討委員会からのお知らせ」	2
▶ リレーエッセイ	4
▶ トピックス「とちぎ子ども医療センター10周年記念式典を挙りました」	4
▶ 「新外来患者案内システムのご案内」	5
▶ 病気を知ろう! 第25回「眼科の病気と症状」	6
▶ 診療科・部門のご案内 「緩和ケア部」「医療安全対策部」	8
▶ 季節のレシピ 「カルシウムたっぷりポテトグラタン」	10
▶ 検査の豆知識	11
▶ お知らせ掲示板	12

患者サービス検討委員会からのお知らせ

平成28年10月13日(木)に、外来アンケートを実施しましたので、集計結果をご報告いたします。これらの結果やいただいたご意見を真摯に受け止め、今後も更なる患者サービスの向上に努めます。

アンケートにご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げます。

配布枚数 2,755枚

(本院：2,515枚・子ども医療センター：240枚)

回収枚数 1,438枚

(本院：1,259枚・子ども医療センター：179枚)

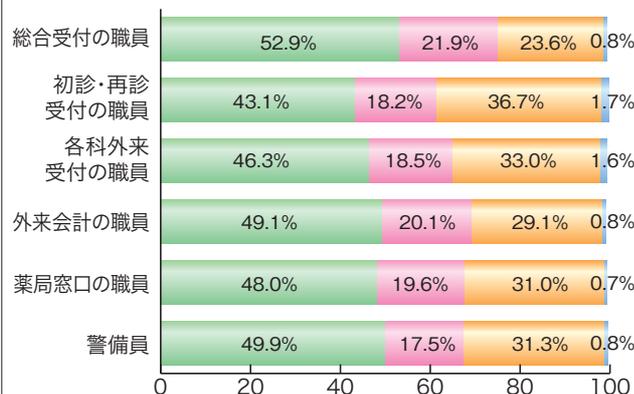
回収率 52.2%

(本院：50.0%・子ども医療センター：74.6%)

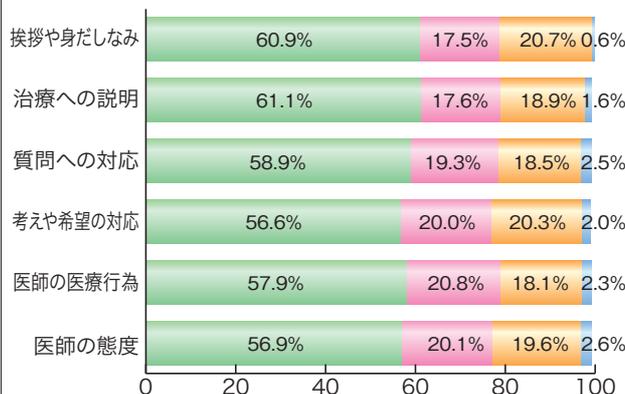
1 職員や設備に対する満足度について

■満足 ■やや満足 ■普通 ■やや不満または不満

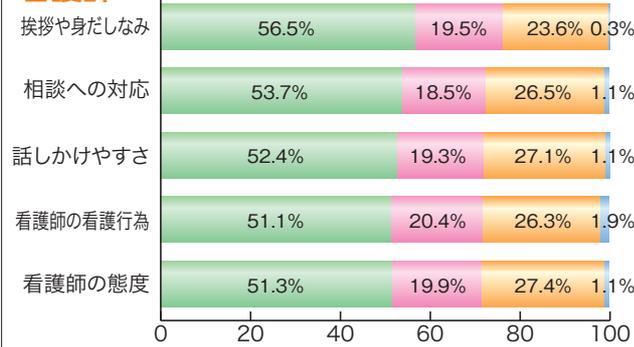
受付・窓口・警備員



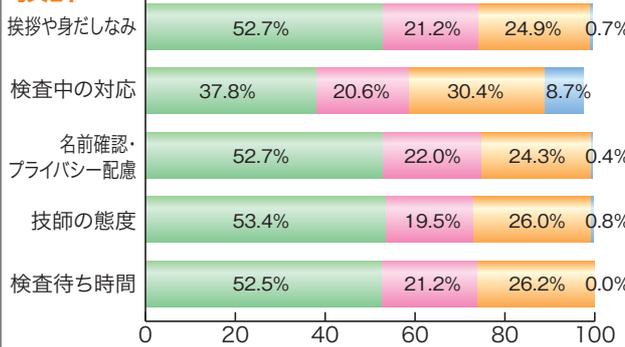
医師



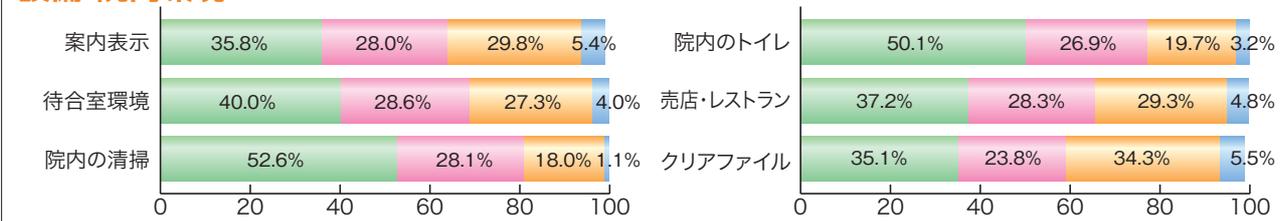
看護師



技師

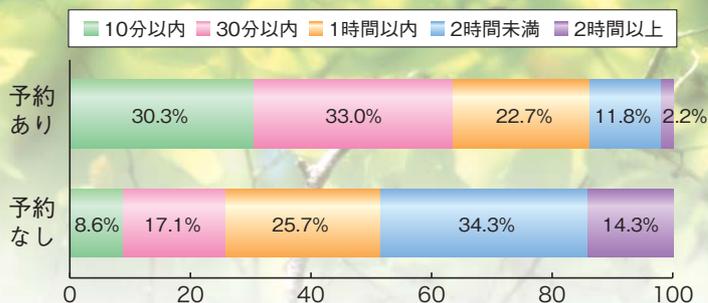


設備・院内環境



2 待ち時間について

		10分以内	30分以内	1時間以内	2時間未満	2時間以上
予約あり	件数(件)	274	299	205	107	20
	割合(%)	30.3	33.0	22.7	11.8	2.2
予約なし	件数(件)	3	6	9	12	5
	割合(%)	8.6	17.1	25.7	34.3	14.3



3 自由意見欄

以下の通り、多くのご意見をいただきました。

尚、紙面掲載の都合上、全ての意見を掲載しておりませんので、ご了承ください。

ご意見		返答
【診療関係】 32件	<ul style="list-style-type: none"> ● 医師が代わると、説明や治療方法等が変わり不安である。 ● 病状等について分かり易く説明してほしい。 	⇒今回のアンケート結果を診療科別に示し、改善に向け努力いたします。
【待ち時間】 57件	<ul style="list-style-type: none"> ● 待ち時間が長い。 ● なぜ遅れているのか説明してほしい。 	
【職員の接遇】 47件	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の顔を見て診察をしてほしい。(医師) ● 患者に寄添って話をしてほしい。(看護師) ● にこやかに対応してほしい。(技師) ● 冷たい印象。明るく挨拶してほしい。(事務) 	⇒接遇に関しては、各部署ごとに見直しをし改善を図ります。
【システム】 14件	<ul style="list-style-type: none"> ● 紹介状が無くても受診できるようにしてほしい。 ● 携帯電話等で受診日等の確認ができるようにしてほしい。 	⇒改善に向けて、検討いたします。
【設備への意見】 71件	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場が狭いの増設してほしい。 ● トイレの数が少ない。 ● 待合室の液晶画面が見づらい。 ● 食事、休憩のできるスペースを増やしてほしい。 	⇒いただいたご意見は今後の院内改善の参考とさせていただきます。
【その他】 119件	<ul style="list-style-type: none"> ● 院内の案内表示を大きくしてほしい。 ● 会計、受付部分の導線が大変混雑している。 ● クリアファイルに診察券を入れるポケットを付けてほしい。 	

いただいたご意見をもとに、更なる患者サービスの向上に努めていきたいと思っております。

アンケートにご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げます。

今後も、自治医科大学附属病院の運営にご理解・ご協力をお願い致します。

リレーエッセイ

〈連載〉第5回

言語聴覚士とは

言語聴覚士

金子 弥栄子

日々の生活で当たり前に行っている「聞く・話す」ことや「食べる・飲む」ことが突然難しくなったら…。耳の聞こえが悪い、上手く話せない、年齢相応にお子様のことばが育っていない、発音が不明瞭…等、ことばやコミュニケーションの問題は、目に見えにくく、乳幼児から高齢者まで幅広く起こりえます。また脳卒中後の失語症のように病因が明らかな場合もあれば、生まれついでの場合など原因は様々です。いずれも、ご本人やご家族の生活に何らかの影響を及ぼします。

このような、ことばやコミュニケーション、食事の飲み込みなどにお困りの方に対し、評価（検査など）や訓練・指導・助言を行い、社会復帰や参加をお手伝いすることが言語聴覚士（通称、ST）の仕事です。

1999年3月に第1回国家試験が実施され、リハビリテーションのスタッフの中でも比較的新しい職種のため社会的認知度も十分とは言えませんが、病院などの医療機関の他、近年は保健・福祉機関、教育機関（特別支援学校など）にも活躍の場は広がっています。

現在、当院には4名の言語聴覚士が在籍し、主に大人の入院患者様を担当する2名と、とち

ぎ子ども医療センターにて外来や入院中の患者様（お子様）を担当する2名で、患者様の機能獲得や改善、能力の回復・拡大などを図るべく奮闘中です。

大学病院である特徴を生かし、医師や歯科医師の指示のもと看護師、その他のスタッフや地域の医療・保健・福祉・教育の各機関と広く連携・協力しながら、その方らしい生活をご本人やご家族とともに作るお手伝いをいたします。

患者様の笑顔につながるリハビリを提供できるよう、真の「話す、聞く、食べる、のスペシャリスト」（日本言語聴覚士協会 公式ホームページより）を目指して、専門知識や技術の研鑽に励んで参ります。お困りのことがありましたら、お気軽にご相談下さい。



トピックス

とちぎ子ども医療センター 10周年記念式典を挙行了しました

経営管理課

とちぎ子ども医療センターは、栃木県小児医療体制整備構想を受け、平成18年9月19日に開設しました。この度10周年を迎えたことを記念し、昨年10月15日（土）に記念式典を挙行了しました。

式典では、センターの開設からお世話になっている皆様をお招きし、大過なく節目の年を迎えることができたことを感謝申し上げるとともに、10年間の実績などを山形センター長からご報告したほか、日頃からご支援いただい

る、子ども医療センターボランティア、花咲jii、ドナルド・マクドナルド・ハウスボランティアの各代表の方に感謝状を贈呈しました。



新外来患者案内システムのご案内

トピックス

医療情報部

これまで、患者さんのお呼び出しは、診察室前の表示板を用いて行っていました。仕組みとしては、①電子カルテ上にその日予約が入っている患者さんの一覧が画面上にあり、②診察室でお呼びできるようになればカルテを開いて、「案内送信」ボタンをクリックすると、③案内板に番号が表示され、チャイム音が鳴る、というものです。

この方式はマイクで呼び出す方式と比較してプライバシーが守られる、患者さんのお名前を呼ぶ音声がなくなって静かになる、というメリットがあります。一方で、自分が呼ばれたかどうかは常に診察室前の表示板を確認しないといけない、隣同士で同じような番号が表示されたときに診察室を間違えやすい等の課題がありました。

そのため2017年1月4日からは受付機(写真1)で受付をすると診察の間携帯して頂く専用の端末(写真2)が発行され、これでお呼び出しする方式に変わりました。端末上にはその日

の予定一覧も表示されており、それぞれ終了すると一覧から消えていきます。診察の順番が近づいてくると音が鳴り、バイブレータが作動して順番が近づいてきたことをお知らせします。端末が鳴ったときにはボタンを押してください。これで病院側に患者さんが了解され、応答があったことが伝わります。最後に診察室にお呼びできるようになれば診察室番号とともに入ってください、というメッセージが表示されます(写真3)。

今回、携帯端末による呼び出し方法に変えたことで、例えば検査と診察の間の時間がしばらく空いているときにJプラザなどでゆっくりお待ち頂いて、順番が近づいてきて呼び出されたときにはじめて移動するという形でお待ち頂けるようになります。

ただ、新しく導入した方法ですのでお分かりにならないこと等あれば遠慮なくお問い合わせください。よろしくお願いいたします。



写真1



写真2



写真3

当日は、地域の皆様にとちぎ子ども医療センターを知っていただく機会として、検査室や放射線室、手術室を回るイン・ホスピタルツアーを開催したほか、祝賀会会場にセンター各部署に作成いただいた部署紹介ポスターを展示し、どちらもご参加いただいた方々に好評でした。

このほか、とちぎ子ども医療センター内たまごの広場の吊り下げ飾りを新調しました。制作はとちぎ子ども医療センターのデザインを手がけた林香君先生にお願いし、患者さんと教職員も関わった力作となりました。

今後とも、地域の皆様のための病院として、また高度な医療を提供する病院として、スタッフ一丸となって努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



病気を知らう!

Do you know the illness?

〈連載〉

第25回

『眼科の病気と症状』



眼科
牧野 伸二

白内障、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症、眼底出血、加齢黄斑変性など眼科の病気について、お聞きになったことがあると思います。今回の「病気を知らう」では、眼科の病気と症状を中心に記載してみました。

緊急性の高い眼科疾患がある

「見え方が急に変わった」、「痛みを伴う充血がある」などの場合は急いで治療が必要になることがあるため、眼科を受診しましょう。

主な症状と眼科疾患

1. 飛蚊症

飛蚊症には生理的飛蚊症と病的飛蚊症とがあります。自覚した時期を明瞭に覚えている時や視力低下を伴う時は眼底出血、網膜剥離など、病的飛蚊症の可能性が高くなるため、眼科受診は不可欠です。生理的飛蚊症は硝子体の加齢による現象で、一般的に明るい環境で、黒い点状、ひも状、半円状などの浮遊するもの、眼を動かすと移動するものとして自覚することが多いのですが、両者の区別は検査してみないとわかりません。

2. 白内障

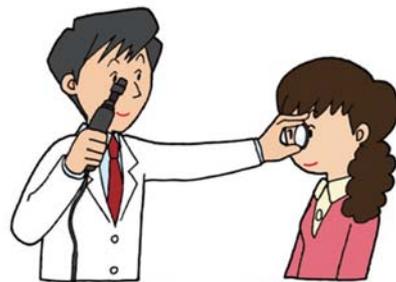
高齢者における視力低下の原因として最も多く、「かすむ」、「二重に見える」などの症状があります。光の通り道にかかる混濁であれば、範囲が狭くても視力低下が著しいことがあります。

3. 緑内障

眼圧が正常範囲内である正常眼圧緑内障が多いので、細隙灯顕微鏡*1、眼底*2、視野検査などが不可欠です。かなり進行しないと視力低下や視野狭窄を自覚しないため注意が必要です。眼の構造によって、薬、暗い所、うつ伏せ姿勢の持続などが誘因となって急性緑内障発作が誘発されることがあります。



*1 細隙灯顕微鏡検査



*2 眼底検査



屈折検査

4. 糖尿病網膜症

眼底出血などで急激な視力低下を自覚して受診することも少なくありませんが、かなり進行した状態になる前に、定期的な眼底検査をしておきましょう。

5. 眼脂

眼脂の性状により、ウイルス、アレルギー、細菌などの原因が推定できます。眼脂のみで緊急対応が必要になることは多くはありませんが、淋菌や緑膿菌などでは角膜穿孔が生じることがあります。

6. 結膜異物

自然に出ることも多いのですが、異物は取れていても角膜にキズがあることがあります。上まぶたの裏は異物が残存しやすい場所で、そこに貼りついていることがよくあります。

7. 角膜異物

鉄片異物では時間が経つとさびが出ることがあります。毛虫や栗のイガなどでは毒素の付着、釣り針のかえしのような働きをする小さい突起があり、無理に取ろうとすると眼の中に入ることがあります。

8. こどもの視力

小児の視力はおよそ、年齢 $\times 0.2$ 程度(3歳児では0.6～0.8)です。大人と同じ視力検査ができる割合は3歳初めで6～7割、3歳後半で9割以上です。小児では一回でうまく測定できることの方が少ないので、視力の値にあまり一喜一憂しないことも大切です。また、なんらかの原因で正常の視力の発達が妨げられて起こる弱視は、早期に発見すれば視力向上が期待できます。そのために最も大切なことは、正しい眼鏡を常用させることにあります。弱視は一眼だけに起こることも多いので、眼鏡を装用しなくても生活に不自由はありませんが、きちんと装

用していないと視力の向上は望めません。弱視眼の視力を向上させるために、よい方の目を遮閉することもあります。

9. 斜視

斜視は見た目のずれだけでなく、両眼でみる機能の異常を伴ったものなので、特に小児ではそのまま放置してはいけません。内斜視の中には、遠視が原因で起こる調節性内斜視があり、このタイプは適切な眼鏡で内斜視が改善するため、手術をするのは間違いになります。外斜視ではいつもずれているものと、時々どちらかの眼がずれているものがあります。頻度によりますが、後者の場合は原則として急いで治療することはありません。成人でもこどもの時から斜視がそのままになっていたり、複視や眼精疲労を訴えて受診することもあります。手術や眼鏡で症状を軽減することも可能です。

眼鏡は正しく作成して正しく装用しましょう

近視、遠視、乱視などの屈折異常の矯正はすべての基本です。「かすむ」、「二重に見える」、「ゆがむ」などを訴える場合、適切な眼鏡の装用で改善することが多いことを覚えておきましょう。ただし、眼鏡を装用していても、レンズの劣化や鼻メガネなど装用状態が悪いと有効な矯正効果は得られないため、適切な装用が大切です。

点眼薬について

治療のために複数の点眼薬を使用している場合は、ある程度時間をあけて次の点眼をするようにしましょう。点眼薬の1滴は約40～50 μ lで、結膜のスペースはそれより少ないので、多く点眼しても意味はありません。

診療科・部門のご案内

緩和ケア部

緩和ケア部
丹波 嘉一郎

緩和ケアは、今からちょうど50年前に、ロンドンのセント・クリストファーズ・ホスピスで始まりました。初めから御本家では、がん以外の慢性疾患も対象とされていました。がんでもなくても苦痛を少なく過ごすことは大切だからです。日本では、ホスピスケアあるいはターミナルケアなどと呼ばれていましたが、しだいに緩和ケアと言われるようになってきました。

我が国では、「がんの診断時からの緩和ケア」が勧められています。でも、ことはそう簡単ではありません。がんと診断されてからすぐに緩和ケアチームが介入した方が、しなかった人々に比べて2ヶ月以上延命したという米国の論文のデータを振りかざして、「がんの診断時からの緩和ケア」を主張する専門家もいます。でも、「進行した肺がんの人に緩和ケアチームが早くから関わった方が早めに抗がん剤を中止できたことで延命したらしい」というのが、より正確なお話なのです。

また、「がんで、もうダメっていわれた人が緩和ケアを勧められるらしいよ」という感覚を多くの人がお持ちのように思います。緩和ケアを

勧められたから終わりではありません。緩和ケア外来に転移のある進行がんの方で、年単位で通われている人もいます。

それに、がん患者さんががんで亡くなるとは限りません。高齢者でいくつもの病気をお持ちだと、他の病気で亡くなることもあります。また、がんの治療の進歩で、治癒または悪化せずに過ごされる方は大勢おられます。

緩和ケアは、本来、がんだけでなく、生命を脅かされる病気にかかった患者さんとその家族を対象にしています。ただし、支援したりアドバイスをするのが主な役割です。緩和ケア部が中心になって支えますというのは、緩和ケア病棟という限られた場になります。

「ゆっくり楽に自分らしく」を支えることを専らとしています。がんだけでなく、生命を脅かす疾患に罹っている患者さん本人とそして家族が、痛みやその他の苦痛が軽く過ごせた方がよい、心の辛さが軽い方がよいと考えておられたら、是非一度ご相談下さい。担当の医療スタッフや患者支援センターに聞いてみることから始めていただくのがよいと思います。



医療安全対策部

医療安全対策部
新保 昌久

医療とは、病気の診断や治療を目的として、検査を受ける、薬を飲む、手術を受けるといった、患者さんの体が何らかの介入を受ける行為です。誰もご自身が受ける医療は、「最も効果的」かつ「最も安全」であってほしいと思うのが当然です。しかし残念ながら、医療に限らず社会生活の中で「100%安全」、「リスクゼロ」を達成することは困難なのも事実です。医療における不必要な侵襲を避け、リスクを少しでも減らすにはどうしたらよいか？医療安全対策部は、組織横断的に院内の医療安全管理を担う部門で、専任・兼任の医師、看護師、薬剤師などの医療スタッフや事務職員が連携して、院内の安全推進のための業務に取り組んでいます。

地域の皆さんに信頼して頂くためには何が重要でしょうか？まずは確かな医学知識と技術ではないかと思えます。採血や点滴を始めとする基本的な医療行為は、決められた手順を体得することが極めて重要ですので、シミュレーターなどを活用した技術教育を積極的に行っています。さらに、コミュニケーションなど技術以外の能力も、患者さんとの信頼関係構築やチーム医療における安全の確保に大切です。特に新人や若手スタッフ向けに、事例検討やグループ討議などを取り入れた医療安全研修(写真1)を行うなど、高度医療を担う医療機関として、技術

と技術以外の能力の両者を高められるような取り組みを進めています。

当院における医療の安全管理に関する基本的な考え方は、「事故が発生しにくい医療システムの構築をめざす」ことであり、「人間は間違える」という認識に立って、個人の経験のみに頼らず、病院全体で情報を共有し安全な医療を目指していくことにあります。ヒヤリハットと呼ばれるインシデント事例や有害事象を全職員から報告して頂き(2016年は約6500件)、その内容を集約・分析し、教訓的な事例を共有するとともに、業務の改善策を提案し運用につなげていくことが必要です。これらの情報は医療安全研修会や各部署の代表であるリスクマネージャーを通じて周知するとともに、毎月行っている院内巡視(写真2)を通じて各部署での取り組み状況を確認するよう努めています。院内巡視は、各部署で頑張っていることや逆に困っていることを直接聞くことができる貴重な機会だと思っています。

より安全な医療には、我々医療スタッフはもちろん、患者さんのご理解やご協力も大切です。まずは医療安全の基本中の基本である「お名前を教えてくださいませんか？」「ありがとうございます」へのご協力を引き続き宜しくお願い致します。



写真1：研修医対象の医療安全研修会



写真2：院内巡視の様子

季節のレシピ



カルシウムたっぷりポテトグラタン

寒い季節はあたたかい食べ物でお料理をいただきたいものです。今回は、じゃがいもを使ったグラタンをご紹介します。

厚生労働省から発表されている国民健康栄養調査（平成27年版）では、「カルシウム」を不足している栄養素の1つとして報告しています。カルシウムは骨を作るために必要な栄養素で、不足すると骨粗鬆症に繋がることもあります。ご紹介するグラタンには乳製品やしらすを使用し、カルシウムが多く摂取できるように考えました。



栄養量(1人分)

エネルギー 322kcal
食塩 1.5g
カルシウム 305mg

*材料(グラタン皿4人分)

じゃがいも	中4個(約500g)	小松菜	4束(約60g)
玉ねぎ	1個(約160g)	オリーブオイル	小さじ1(約5g)
ぶなしめじ	40g	小麦粉	12g
釜揚げしらす	40g	スキムミルク	16g
マーガリン	8g	塩	1g
牛乳	120g	こしょう	適量
ピザ用チーズ	80g		

☆ポイント☆

日本人の食事摂取基準2015年版でカルシウムは成人において1日約600~700mg摂取することが推奨されています。このメニューで半分量を補えます。

*作り方

1. じゃがいもはラップで包み、電子レンジで加熱し、柔らかくします。(600wで2分程度) 柔らかくなったら、皮をむき、約3mm厚さに切ります。
2. 玉ねぎは薄切り、小松菜はざく切り、ぶなしめじは食べやすい大きさに切ります。
3. フライパンにオリーブオイルをひき、玉ねぎ・小松菜・ぶなしめじを入れてしんなりするまで炒めます。最後にじゃがいもを加え炒めます。オーブン(250℃)の予熱を入れておきます。
4. 別のフライパンでホワイトソースを作ります。マーガリンを入れて熱し小麦粉を炒め、牛乳を手早く加えます。(ホワイトソース缶を使用してもよいです。)
5. スキムミルクを水約20mlで溶いて加え、とろみがつくまで加熱し、塩・こしょうで味を調えます。
6. 器に具材を盛り付け、ホワイトソースを上からかけます。
7. 上にしらすをのせ、ピザ用チーズを振りかけます。
8. オーブン(250℃)で約7~8分焼いて(チーズに焦げ目がつくまで)完成です。

※治療食の指示がある方は、ご自分の食事療法に準じてください。

担当：臨床栄養部 千葉円香

検査の豆知識

輸血療法に必要な輸血検査についてご説明いたします。輸血検査には、血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験の3つがあります。



血液型

血液型とは、赤血球の表面に出ている抗原の違いによって名付けられたものです。現在、300種類以上の血液型があることが知られています。臨床的に重要なのは、ABO血液型(図1)とRh血液型です。ABO血液型は、赤血球以外のだ液腺や胃腸にもみられます。ABO血液型物質をだ液などに分泌する人を分泌型、分泌しない人を非分泌型と言います。ABO血液型検査は、個人鑑別や親子鑑定にも用いられます。

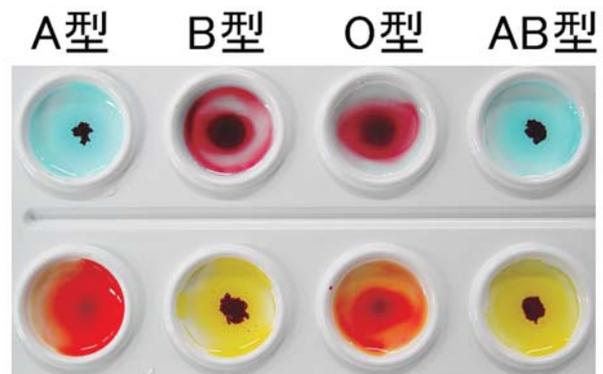


図1

不規則抗体

自身の赤血球には反応しませんが、他者の赤血球に反応する抗体を不規則抗体と言います。生まれつき自然に持っている場合と、主に輸血や妊娠で免疫されて作られる場合があります。不規則抗体は、溶血性副作用や新生児溶血性疾患の原因となります。

交差適合試験

クロスマッチとも呼ばれます。患者様と血液製剤との適合性を調べる検査のことです(図2)。ABO血液型が同じであること、不規則抗体で反応しないことを確認します。

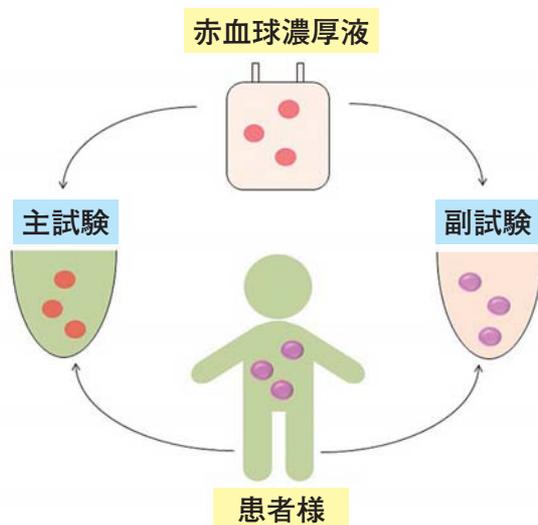


図2

輸血検査と認定制度

輸血検査は、専用の機械を用いて行っています(図3)。輸血・細胞移植部には、日本輸血・細胞治療学会認定医1名と同学会認定輸血検査技師8名がおり、輸血療法の専門家として適正な輸血検査をおこなっています。



図3

担当：輸血・細胞移植部
室井一男

お知らせ掲示板

自治医科大学附属病院の各部署のご案内

自治医科大学とちぎ子ども医療センター支援基金について

当院では自治医科大学とちぎ子ども医療センターの機能の充実・療養環境の維持向上等を図ることを目的とした寄附を受け入れております。

平成27年度にご寄附をいただきました方々のお名前を掲載させていただくとともに、寄附金の使途についてご報告させていただきます。



《セラピードッグ訪問の様子》

平成27年度寄附受入状況

《寄附金》

- 収支合計金額 397,055円
- 寄付者様のご芳名（順不同）
 - ・井上 安子様
 - ・常 ひとみ様
 - ・なでしこの会様
 - ・BonBon様
 - ・その他匿名 3名様

その他、とちぎ子ども医療センターに設置しております募金箱にも多くの方々からご協力を頂いております。

《現物寄付》

- ・松田 恵美衣 様（ハンドタオル110枚）
—クリスマスプレゼントとして—

平成28年度の主な使途内容

- ・セラピードッグの訪問
- ・子ども医療センター『吹き抜け広場』飾り

◎平成28年9月に、とちぎ子ども医療センターは10周年を迎え、『吹き抜け広場』の飾りを元文星芸術大学教授の林香君先生のご協力のもと、新しくいたしました。

ご寄附いただきました方々に、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

なお、随時、ご寄附の申し込みを受け付けております。お問い合わせは下記へご連絡ください。

《連絡先》自治医科大学附属病院 経営管理課
TEL 0285-58-7103 担当 上武・野口

病院敷地内全面禁煙のお知らせ

健康増進法では、学校や病院など多数の者が利用する施設において、受動喫煙（他の人のたばこの煙を吸うこと）の防止を定めております。

当院では、法の主旨に基づき、平成20年9月1日から病院敷地内を**全面禁煙**としております。

皆さまのご理解とご協力をお願いします。



禁煙したい方へ

当院には禁煙外来がございます。
電話予約のうえ、受診ください。

■ 診察日 毎週月曜日 午後3時～4時
(完全予約制)

■ 連絡先 自治医科大学附属病院 呼吸器内科
0285-58-7467(直通)
午後2時～午後4時(土日祝祭日除く)

クリスマスコンサートの開催について

患者サービス検討委員会

12月17日(土)に本館1階生理機能検査室にて、クリスマスコンサートが開催されました。今回は、自治医科大学オーケストラ部の皆さんや下野音女の皆さんに演奏していただき多くの患者さんや面会者の皆さんにお越しいただきました。

第1部は自治医科大学オーケストラ部の皆さんによる演奏で幕が開け、まるでオーケストラのような迫力ある演奏を聞かせてくださり、「とても心が癒され感動した」との感想を多くいただきました。

第2部では、下野音女の皆さんが二胡とピアノの演奏で「Silent Night」や「川の流れるように」を披露していただきました。

「初めて二胡の演奏を生で聴けてとても感激した」、「温かい演奏が素晴らしかった」との感想を多くいただきました。

コンサート終了後には、「人の心を変えることのできる音楽は素敵だと思った」、「感動して泣いてしまった」、「これからも開催してほしい」との感想を多数いただきました。今後も、皆さんに喜んでいただけるようなコンサートを開催していきたいと思えます。



外来第2駐車場の閉鎖に伴うお願い

現在、新館南棟(仮称)の建設工事に伴い外来第2駐車場を下記の期間閉鎖しております。

第2駐車場の閉鎖による駐車場の不足を補うため、第1駐車場内駐車スペースを増設し、駐車スペースの確保に努めておりますが、病院正面の外来駐車場が一カ所に集約されることにより、第1駐車場の入庫の待ち時間が長くなってまいります。

大変ご不便をお掛け致しますが、第1駐車場が満車の際には、下記の第3～第7駐車場をご利用いただきますようご協力をお願い致します。

記

閉鎖期間

平成28年7月9日～平成30年3月31日



ボランティア募集

自治医科大学附属病院

- 活動日 月～金（祝日除く）
- 場 所 自治医科大学附属病院
- 内 容 外来中心 診察申込書記入の代筆、院内の案内、
車椅子の患者様の介助など



お問い合わせ先

自治医科大学附属病院
患者サポートセンター ボランティア支援室

TEL 0285-58-7103 (直通)

E-mail honin-volunteer@jichi.ac.jp

とちぎ子ども医療センター

- 活動日 月～金（祝日除く）9:00～17:00
- 場 所 子ども医療センター
- 内 容 外来（案内・見守りなど）
病棟（保育・学習・読み聞かせなど）
作業（手芸・園芸・装飾など）



花咲jii

- 活動日 毎月第3又は第4日曜日（午前中）
- 場 所 子ども医療センター 外庭
- 目 的 美しい花、香りのある木、実のなる樹木
を植え、季節感を与え、病気と闘う子ども
たちや家族を元気づける
- 内 容 花木の植栽、除草、花床の整備など



お問い合わせ先

とちぎ子ども医療センター ボランティア室

TEL 0285-58-7815 (担当: 鈴木)

E-mail child-volunteer@jichi.ac.jp

ご意見・ご感想

「自治医科大学附属病院だより」へのご意見・ご感想をお寄せください。

ご連絡先▶自治医科大学附属病院 経営管理課 TEL 0285-58-7103 メールアドレス soumu@jichi.ac.jp

ご面会について

ご面会の時間は次のとおりです

本館・新館 ●平日 13:00～20:00
●土・日・祝日 13:00～20:00

（ただし、産科病棟は、毎日 15:00～19:00）
精神科病棟は、毎日 13:00～19:00）

・ご面会の方は、必ず本館1階総合案内「面会者受付」で受付し、**バッヂ**を付けていただき各病棟のスタッフステーションで**許可**を受けてから病室にお入りください。

子ども医療センター 15:00～19:00

・ご面会の方は総合案内にて受付をして、**面会カード**を首から提げて病院の入り口でインターホンを押し、お名前とお子様との関係をお話ください。

※ご面会は決められた時間内に短時間でお願います。

※大勢でのご面会はご遠慮ください。

※お子様は感染防止のため、お連れにならないでください。

面会の際には、
時間を守りま
しょう。

第25号

自治医科大学附属病院だより

〒329-0498
栃木県下野市薬師寺3311番地1
TEL 0285-44-2111
FAX 0285-40-6016
URL <http://www.jichi.ac.jp>

発行日/平成29年2月1日
編集・発行/自治医科大学附属病院
病院広報戦略会議
印刷/(株)松井ピ・テ・オ・印刷